

輸精管切断によるオオクチバス (*Micropterus salmoides*) 雄親魚の避妊化方法

関 慎介

◆背景・目的

現在、滋賀県では外来魚を対象とした積極的な捕獲駆除事業が行われている。その結果、外来魚の生息量は減少傾向にある。しかし、捕獲により生息量を一定量まで減少させることができても、それだけでは外来魚の撲滅は困難である。

そこで、新たな駆除方法の一つとして、オオクチバス雄親魚の避妊化による繁殖阻止法を検討している。

◆成果の内容・特徴

- オオクチバス雄親魚を避妊化するため、(Ⅰ)カギ針を生殖孔から挿入し回転させて輸精管を切断する、(Ⅱ)カギ針を生殖孔から挿入し輸精管部を引き出して切断する、(Ⅲ)熱源を生殖孔から挿入し輸精管部を焼くの3とおりの方法(図1)の有効性を検討した。
- 平成16年3月22日、23日に各方法でオス親魚を施術し、約一ヶ月の養生の後、それらのオス親魚をメス親魚と同一池に収容し、産卵された卵の孵化状況を調べた。
- その結果、避妊化成功率(施術をした供試魚のうち、避妊化された尾数の割合)は、方法(Ⅱ)が73%で最も有効な避妊化方法と考えられた(図2)。

◆成果の活用・留意点

- 今後は避妊化の成功率を上げる為の技術の改良および避妊化オス親魚による繁殖抑制シミュレーションを行う為の数値的データの集積に努める。

